

新しい公共支援事業の成果等報告  
(新しい公共の場づくりのためのモデル事業分)

1 事業実施内容

モデル事業名	NPO等と企業が地域課題に取り組むことを盛んにしていくための仕組みづくり																
分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般枠 <input type="checkbox"/> NPO支援重点化枠																
事業実施主体名	特定非営利活動法人Mブリッジ																
事業概要	<p>※事業の概要が分かるように、100～150字程度で簡潔にまとめて記載してください。</p> <p>NPOと企業がともに地域課題を解決するために、対話（ダイアログ）を手段として用いながら、互いの理解を深め、協働を推進する事業です。ダイアログを通じて、①NPOの組織力の強化、②NPOと企業が出会う場の設定、③双方が対等な立場で協働・連携し、継続的に地域課題の解決に取り組むことができる事例の創出をめざします。</p>																
実施期間	平成23年度	—															
	平成24年度	平成24年4月1日から平成25年3月29日まで															
支援額 (注釈参照)	平成23年度	— 円 ※総額のみ記載してください。															
	平成24年度	<p>※総額及びその内訳を記載してください。</p> <p>2,500,000円</p> <p>【内訳】</p> <table border="0"> <tr> <td>人件費</td> <td>2,187,780</td> </tr> <tr> <td>旅費</td> <td>58,240</td> </tr> <tr> <td>研修費</td> <td>11,000</td> </tr> <tr> <td>資料・消耗品費</td> <td>61,965</td> </tr> <tr> <td>通信運搬費</td> <td>200</td> </tr> <tr> <td>印刷製本費</td> <td>13,320</td> </tr> <tr> <td>会議費</td> <td>42,678</td> </tr> <tr> <td>調整費・一般管理費</td> <td>124,817</td> </tr> </table>	人件費	2,187,780	旅費	58,240	研修費	11,000	資料・消耗品費	61,965	通信運搬費	200	印刷製本費	13,320	会議費	42,678	調整費・一般管理費
人件費	2,187,780																
旅費	58,240																
研修費	11,000																
資料・消耗品費	61,965																
通信運搬費	200																
印刷製本費	13,320																
会議費	42,678																
調整費・一般管理費	124,817																
マルチステークホルダー（会議体）の取組状況	●協働事業参加組織																
	三重県環境生活部 男女共同参画・NPO課																
	三重県雇用経済部 サービス産業振興課																
	松阪商工会議所 地域振興課																
	●会議の実施状況																
	実施月日	会議の議題															
4月11日	今後の活動方針の共有																
7月20日	今後のスケジュールの共有																
	※その後は随時メール等で情報共有しました																
事業内容	<p>※事業内容、実施事項、実施方法、実施の分担（直接、委託、助成を含めて）等について記載してください。</p> <p>※委託・助成した団体等がある場合、当該団体名等について記載してください。</p> <p>■ダイアログの実施</p> <p><b>事例1</b> シャープ株式会社三重工場 ステークホルダーダイアログの実施</p> <p>日 時：平成24年5月15日（火）</p> <p>場 所：シャープ株式会社三重工場</p> <p>目 的：三重工場が制作・発行してきたCSRレポートを市民と一緒に振り返り、次</p>																

年度以降の情報誌をよりよくしていくために市民の声を取り入れる。

参加者：地域住民、NPO、行政職員、大学教授、学生、一般企業、関連企業、三重工場の社員など28名

ダイアログの当日運営をするとともに、シャープのダイアログをより多くの市民に知っていただこうと、後日にダイアログの当日のようすと参加者のコメントを掲載した「シャープと地域の対話新聞」（報告書）を制作。この新聞は、10月初旬にシャープ株式会社三重工場のある周辺地域の住民に各戸配布されました。



### 事例2 松阪商工会議所と連携したアイデアのブラッシュアップダイアログ

日時：平成24年11月30日（金）、12月4日（火）

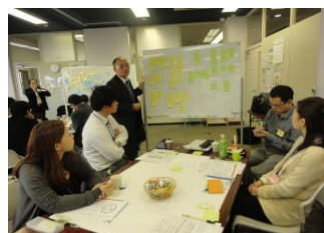
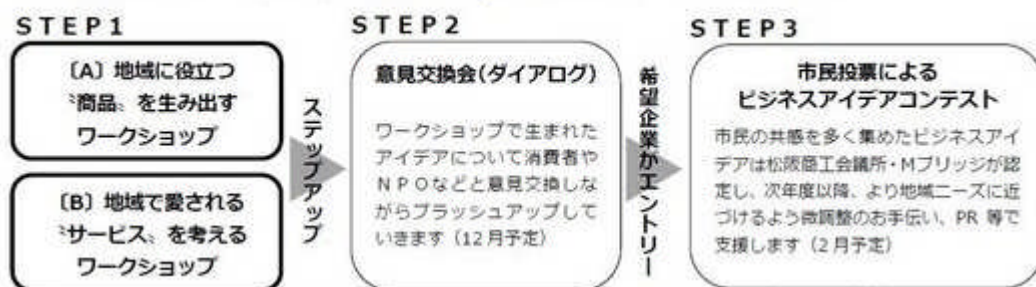
場所：松阪市市民活動センター

目的：地域課題をテーマにしたビジネスアイデアを、市民・NPO・行政・企業など多様な立場の方に色んな意見を取り入れて、より地域目線の、より実現性の高いプランへと育てる。

参加者：ビジネスアイデアの提案者9名（廃油回収業、楽器店、農家、NPOなど）、参加者のべ51名（企業、NPO、行政職員、一般市民ほか）

松阪商工会議所とMブリッジでは、今年度、「地域課題をテーマにした新規ビジネス創出サポート事業」を進めてきました。この取り組みは、企業とNPOの協働をうながすための仕組みづくりを目的として実施したものです。事業の全体像は、下記の通りです。

#### ● 地域課題をテーマにした新規ビジネス創出サポート事業の流れ



上記の事業のなかで、「STEP 2・意見交換会（ダイアログ）」の部分STEP 1・ワークショップで生まれたアイデアをビジネスアイデアコンテストへと導くための「ブラッシュアップのツール」として活用しました。当日は、9つのビジネスアイデアを参加者とともにブラッシュアップ。ビジネスアイデアを提案した企業らにとっても評判が高く、その後のビジネスアイデアコンテストには8つのアイデアをエントリーいただきました。

### 【意見交換会（ダイアログ）にアイデアを応募した企業の声（一例）】

- ・ 個人で考えていた内容が他の意見を聞くことでより具体的な案になりました。
- ・ 今まで参加させていただいた中で一番有意義だったと思います。
- ・ 全体のファシリテーターの池山さんや各テーブルファシリテーターのおかげで活発な意見交換ができました。最初のウォーミングアップなども場が和んで良かったです。

参考URL) <http://bit.ly/10aCwb6>

### 事例3 住友電装株式会社の社内ダイアログ

日 時：平成25年1月18日（金）

場 所：住友電装株式会社鈴鹿製作所

目 的：鈴鹿製作所で環境活動を担当する「エコクラブ」を対象に、メンバー自身が活動を理解し、来年度へ向けた新たな活動のアイデアを生み出す。

参加者：「エコクラブ」のメンバー37名

5月に実施したシャープ株式会社三重工場の「ステークホルダーダイアログ」に、住友電装株式会社のCSR担当スタッフに参加していただいたことがきっかけとなり、ダイアログを開催させていただきました。アンケートでは、参加者の97%が「非常に有意義だった」「有意義だった」、また92%が「また参加してみたい」と回答。ダイアログが組織内のコミュニケーション促進、企画のアイデア出し等にも有効であることを実感しました。



### ■ダイアログを学ぶための研修・視察・ネットワークづくり

#### ○5月1日「ダイアログbar 京都」参加

全国的に注目されているダイアログの最先端の事例を視察しにいきました。

#### ○6月2日「ミナトモカフェ」参加

桑名のグループによるダイアログを見学しにいきました。目指すゴールは違っても、同じ県内でダイアログに取り組む団体との交流は、多くの学びがありました。

○8月2日「CSR、会社の未来 その先へ—新しい経営戦略の構築に向けて」受講  
パートナーシップ・サポートセンターが主催するセミナーに参加。ダイアログを手法として用いながら、経営戦略を組み立てていくという内容は非常に参考になりました。

#### ○9月29日、30日「全国ボランティアフェスティバルみえ」出展

「シャープと地域の対話新聞」を配布しました。

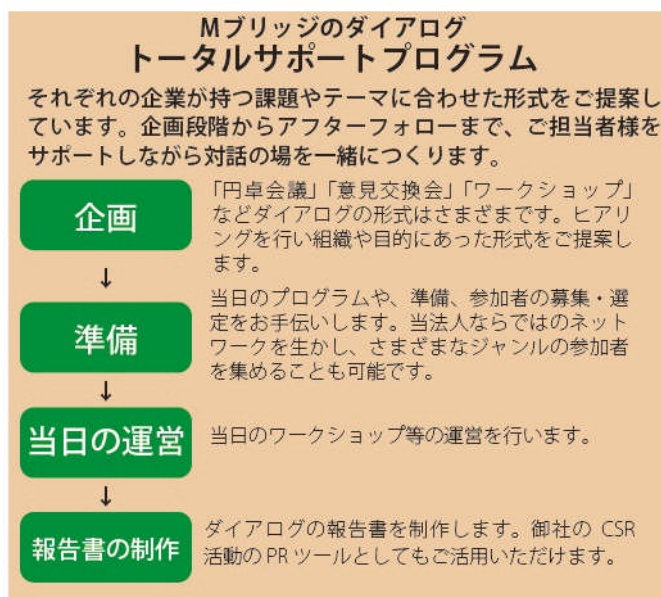
#### ○11月23日「大和ハウスステークホルダーミーティング」視察

大和ハウス本社で行われたステークホルダーミーティングに参加しました。他社のステークホルダーミーティングの運営を知る貴重な機会となりました。

参考URL) <http://www.daiwahouse.co.jp/csr/stakeholder/09/outline.html>

<p>当初計画（採択時）からの変更点とその理由</p>	<p>当初のスケジュールでは、ダイアログのモデルケースを2回実施する予定でしたが、3回実施することに変更しました。これは、第1回目（シャープ三重工場）での反響が予想以上に良く、需要の高さを感じたためです。ただダイアログを実施する時期については、相手との調整により決定したため、当初は9月までにすべて実施する予定でしたが、第2回を12月と第3回を1月に実施することに変更しました。</p> <p>また当初は、8月～9月頃にダイアログの「普及」を目的として「ダイアログ勉強会」を実施する予定でしたが、開催する中でダイアログを知っていただくには、参加または見学していただくことが最も有効であると考えました。そこで、ダイアログの開催に興味を持っていただいた企業には、ダイアログを開催する際にできるだけ参加・見学していただけるようにしました。</p> <p>また別事業ではありますが、当法人で3月に松阪市社会福祉協議会とCSRに関するセミナーを共催する機会があり、ダイアログの事業を非常に評価していただいたことから、ダイアログや企業とNPOの連携の重要性を伝えるセミナーを開催させていただきました。</p>
<p>成果と課題</p>	<p><b>成果1</b> <u>ダイアログのモデルケース（実施を提案するメニュー）の整備</u></p> <p>目的別に様々な形のダイアログ（※）を実施し、その経験を踏まえて「ダイアログ」を普及するためのメニューを整備することができました。これらを、今後の推進の柱としていきたいと考えています。</p> <p>（※） 様々な形のダイアログの例</p> <p>①新しい商品・サービス開発へ向けた 「アイデア出しダイアログ」 …商工会議所との連携事業</p> <p>地域住民・NPO等を集めて、</p> <p>②CSR活動への意見を聞く …シャープ(株)三重工場 「ステークホルダーダイアログ」</p> <p>③社内コミュニケーション促進のための 「社内コミュニケーションダイアログ」 …住友電装株式会社</p> <p><b>成果2</b> <u>ダイアログに取り組む体制を確立</u></p> <p>4回以上にわたるダイアログを実施するなかで、運営するためのノウハウが蓄積されるとともに、スタッフ自身のスキルもアップしました（一部のスタッフは期間中にワークショップデザイナーの資格を取得。学んだことを生かす場として、ダイアログのメインのファシリテーターにチャレンジする機会もあり）。</p> <p>1年間で培った運営のノウハウとスキルは、今後のダイアログ運営に生かしていきたいと考えています。</p>

上記の成果1と2を踏まえ、下図のとおりダイアログを進めるプログラムも構築できた。



## ○事業を通じて得られたこと（気付きなど）

### 1. 参加者からのクチコミで次のダイアログへつながった

ダイアログを実際に開催し、その需要の高さを実感しました。また1月に実施した住友電装鈴鹿製作所のダイアログは、5月のシャープ三重工場のダイアログにご参加いただいたことがきっかけで「自社でも開催したい」との申し出をいただき、実現にいたりしました。また他にもこの事業がきっかけとなり、地域や大学等の組織のダイアログにご協力させていただくこともありました。

\*この事業がきっかけとなり協力させていただいたダイアログ)

#### ①平成25年3月8日 大阪人間科学大学FD研修ダイアログ

▶大学のFD研修の一環として実施。教員同士のコミュニケーションを促し、大学の授業をよりよくしていくためにワークショップを実施。



#### ②平成25年3月11日 学生と大人のトークフェスタ！みえ 大台町編

▶地域の資源を活用しながら、大学生が主体性を持って取り組めるアイデアを考えるワークショップを実施。



### 2. ダイアログに関わった企業が高い評価を得た

シャープ三重工場のCSRレポートが今年度の環境コミュニケーション大賞を受賞しました。講評では、ダイアログについて伝えた「シャープと地域の対話新聞」も高い評価をいただきました。また地域住民やNPO、行政大学などとの

	<p>コミュニケーションが高く評価され、『工場における「ダイアログ」のモデル事例』とも書かれており、企業と地域（住民、NPOほか）が対等な立場で協働・連携し、継続的に地域課題の解決に取り組むために有効な素地が築けたと考えています。</p> <p><b>課題</b></p> <p>課題は、ダイアログの有効性・必要性をより多くの企業や組織に知っていただき、取り入れていただくことです。これまではクチコミでの拡がりが多かったので、そういったつながりも大切にしながら、ホームページ等での広範囲への広報にも力を入れていきたいです。そのためにもわかりやすいメニューの作成やフローの提示などをしていきたいと考えています。</p>
<p>平成 25 年度以降 の見通し</p>	<p>今年度のモデルケースを検証し、さらなるプログラムの成熟を目指します。また、今年度実施したダイアログの成果を伝え、広報していくことで、より多くの組織でダイアログ（対話）を推進していきたいです。また対象を企業だけでなく、ニーズのある地域や自治体などへも広げていきたいと考えています。またダイアログに参加していただいた企業から、平成 25 年度での実施のご相談をいただき、現在、その準備を進めています。今後も、ダイアログの実施を継続して進めていきます。</p>

(注) 当該支援額により取得し、又は効用の増加した価格が 50 万円以上の機械及び器具等がある場合、別葉にて、機械等の名称、価格、管理者及び耐用年数等を明記すること。

2 成果の達成状況等

平成 24 年度に 達成しようと する成果	① ダイアログを運営できるNPOを生み出す。 ② NPOと企業の協働の必要性を広く知らせる。		
具体的な指標 の達成状況等	項 目	当初目標設定	平成 25 年 3 月末の達成状況
	① 当法人のダイアログ 開催数	目標値 (1) / 現状 (0)	4
	② 企業へのダイアログ 呼びかけ数	目標値 (50) / 現状 (0)	80
	成果指標の達成状況		
	ダイアログを運営できるNPOを生み出す、という点においては、この1年間でダイア ログの運営体制を作ることができました。NPOと企業の協働の必要性を広く知らせる、と いう点においては、ダイアログを実施し、企業とNPOが同じテーブルについて意見を交 わし合ったことで、その第一歩は達成できたと考えています。		
	達成に向けて行った工夫 または 未達成の原因及び講じた改善策  「ダイアログを運営できるNPOを生み出す」ために、まずはダイアログのモデルケース を作り、企画・運営の体制を社内でしっかりとつくりました。「NPOと企業の協働」は 一足飛びでは生まれません。まずは、対話し、お互いを知ることによって協働へとつなげていき ます。そのため、ダイアログをデザインするときに、会場の設営や、プログラムの冒頭に コミュニケーションゲームなどを取り入れるなど、『対話しやすい環境づくり』を工夫し ました。参加者アンケートなどからも「最初のゲームで気持ちがほぐれた」「参加しやす くなった」などの声をたくさん書いていただいています。		
現状の 自己評価	評価ランク <input checked="" type="checkbox"/> S:特に優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> A:優れた成果が得られた <input type="checkbox"/> B:一定の成果が得られた <input type="checkbox"/> C:限定的であるが成果が得られた <input type="checkbox"/> D:成果が得られなかった (該当する評価にチェックを付けてください)		